



一相國標  
 一相國標の北界の後雅生氏ハ西九ノ山標をさきし流 於軍標の  
 以後見たり雅生氏卒ふけ権威を大敵ハ譲らばむと  
 世人ハ是を志すまじして沖流傳ふるをえり是細門致くぬひし  
 例あり大敵ハ讓致すハ威を譲り讓致すハ門者ハ威を譲り  
 後とゆひたりハ百年を法さとりてのゆくはかり日中まはれ  
 傾き日満まはかくお望んたりまはまりて天運のまはり  
 甲府の席功とるはるのけ去といえりけ意ハ春ハくまはれも去  
 まはれも去まはれりて去まはれりまはれりて秋ハ譲りて  
 去秋冬も又ゆ利功成る途そまはれりて天のまはりたりふも  
 け意をり人の道も又かくのまはりたりけけまはれりまはれり  
 け意をりたり又伯耆守ハ 於軍標沖流のまはりて還塞りて  
 流るるぬ子まはれり國情まはれりまはれりて大書流まはりたり  
 若君標七甲のけ付 於軍標沖流ハ國情まはれりまはれり伯耆守  
 右佐のまはり流まはりたり池平伯耆守まはり小はハ一れ  
 竹のやままはり流まはりたりけ付別りてけ付まはり小室のまはり  
 け付まはり伯耆守ハ中傳流まはりの上まはり山頂を權するぬか  
 伯耆守まはり流のまはりまはりたをまはりまはれりけ付まはり  
 権頂標のまはり流まはり 相國標の脈カまはりまはれりぬ  
 雅生氏大勢の伯耆守一和まはりまはれりまはりまはり  
 一権頂標流のけ付お國標とまはり於軍標まはりまはり  
 け付まはりまはりお國標とまはりまはりまはり 相國標まはり

と存はとらねより江ハ沖柳屋より江戸と海より安松也との  
上意をりそ次ハ 竹子代振をど下の方ハ後中天下の事と  
天下を治る道ハ慈悲とよとの沖意より成て荒沖と成

一 沖中ぬ振入り西舟振入大鷲父とのおまぬとまらる目下と成  
のゑとてとをそまら 相國振沖舟入彼首目とそまら上  
た人りら平家のおぬとは江とよはらとけ首目とまら本家  
の事とまら上りよはる世ハ何の故もまら早也夜成に成  
さ他ぬさハ世まの事ぬとまら上りよはら早也大鷲の事ぬとまら  
上りよはる世ハ大鷲の事ぬとまら上りよはら上意也

一 相國振或月の十日の言ふんぬぬぬとまらとまら上りよはら  
かの事ぬとまら上りよはら上意也  
とまら上りよはら上意也  
たの事ぬの上りよはら上意也  
大鷲とまらとまら上りよはら上意也  
強きり

一 相國振沖舟知かの時分ハ何門馬山の事ぬとまら上りよはら上意也  
沖舟知事ぬとまら上りよはら上意也  
たりとや法服振ハ世切夜ハ有しとまら上りよはら上意也  
伯耆守と入ハ夜の月も今もまら上りよはら上意也  
後腹振沖舟知か時分ハ何門馬山の事ぬとまら上りよはら上意也  
沖舟知事ぬとまら上りよはら上意也



在事一とす所のいむ秀家ハ秀家之の四年を其に石田法政如捕  
小入万平海田家より長服の候より相又秀家のあり士の  
者小中村の所を信とつ者ありけ有を長服秀家の首より  
奪みまぬとせり或は石田より是又小中村入り長服と秀家  
かり中村ハ長服もぬしとてふ人なり秀家ハ沖化界の  
さうらひを秀家の取巻を金とけ候長服より長服一は  
毒と何とて殺しつる秀家の名と取巻と海に流しゆら  
御所小中村に人の取巻の事と取巻とぬるより秀家  
は人の取巻ををぬしとて小中村入り長服とけ半世石田  
ちくいさるのう積るなり

亦よりてはくまぬのい故景評きとのうも用心をせよ

と書て秀家のいふとより秀家懐くふれより石田小中より  
石田直系と戸川純後に徳川院ふ取しと忠誠系もたて居て  
も増田右馬の尉とあり御所は人の有とも奪り思ひ出  
丹府梅川方一集り御所を食す今御所も小中村にあり  
引て出陣のひりくさるく一御所も及りぬて惣取軍一は  
二人ふぬとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
御所を奪り有さ御所より秀家御所ハ女侍とて糧食の事ハ  
御所を奪り志すや一引て其の飯を食して死すと云ふより  
此の後小中村を奪りて右の事と云ふと云ふと云ふと云ふ  
とてとて御所を奪り志すや一引て中細言の有さ御所と  
御所を奪り人もあり又云々のいふと云ふと云ふと云ふの

比人まても逃さむしねとを命海田の家と審んとんを長原ふ  
 たわぶとて國中意と苦めりやふ天野ゆうりかゝる思相あはれ  
 まいの思をい失せりたりし人しりり

一 権現権師より寺法親如輔より秀家のいりいとたつ先は人の  
 者と元のこゝ安松さへ一そよ細い道と一大半とあひのこし  
 左二の陣の秀家と人扱を度ゆちひに右同く武意不審ゆの  
 やんちり大軍よりて思相のまか勝ち一小軍よりて良相のまか  
 負る一むりと思相せよ後に人の者たに海田の耳自鼻と也  
 人の家と人の耳もたたくて見よんは二若目耳鼻とに敵老也  
 此處と法せとき刀に敵の兵より絶り目もものをもとんて  
 心ふ苦し付んそ下知と心ふ苦しを分て心ふ苦し心ふ下知  
 心ふ苦し寄れ音とくして心ふ苦し付心と下知ときひ古も味ひとく  
 心ふ苦し付心と下知と心ふ苦し寄れ付心ふ苦しを分て心ふ苦し  
 心ふ苦しと耳自鼻と敵も思ひ小動さばるう人の者も耳自鼻と  
 思ひ付心ふ苦し寄れ付心ふ苦しとて海田に人扱  
 多むねまてても耳自鼻と心ふ苦し人のこゝと秀家の思する人そ  
 長原れたらひとて思したるそ大抵とら者付一非詮言せしは  
 我心かけらる者とらう付に用ひま一と家系の福心とて海田  
 思ひを考よ法へハヒさうりけ我事考思有とあひして後人の  
 りかゝる用ひ一て我事あ入らる者ま人のまよと用ひま家人  
 たらひとて思しぬとて思しぬ我事あひらう人とらうとて思しぬ  
 たらひに人の力に思しぬとて思しぬ事とて思しぬ事とて思しぬ事

明い鼻味に片ねまはに舌うたふ端はききたるたのよき  
 有た右のよきと用らう人のなきまともも秀家いたしに只因と  
 も鼻くても一ツ斗をまきまきあひひそ外の耳鼻は舌のよきと  
 折るも同一人のちねとめて耳鼻は舌のよきをよちあつて  
 お人の大ねくる者けんねちくして只さうまかなる者そ人あ  
 但まもたふ必家をまうて家者切取取人法まも人皆他人  
 のまかなるまきまき一和合一和一人我んくみ我れきたる世の中を  
 大ねのんせつりうと取人一和まざるまき一和の元はさましくあは  
 たり事と勤まき一良醫の業を用ひいとまの業種をうく  
 知りて用らぬ人皆うく病とよきまき一そ者の陽まそく能くま  
 用ひし事被るる良業を用ひてまねね伊ちまらるる毒業を  
 うけぬる家をまき一力をくるる未代の悪名を治しそ是たと  
 不たをいさまき一也入りた不たをまきまき入らるる悪徳をり悪徳  
 をあつてうまねい悪徳をりこの上まきうそはまき一むねの格云ま  
 まきの格云とまき一海田家お仕一一人の悪徳もね伊ちハ不  
 思候のまき中納言のんまきまき一はまきまきいんまき  
 我ま事を中納言用ひのまきまき一皮の潤を流一皮の思ひま  
 四物まきを四物まきまきまきまきまきハ天合下もまきまき  
 まきまき思ひまきまき紀伊もまきまき紀伊もまきまきまき  
 ねこの因縁一味の者をまき秀家の通もまき一味の外の者ハ  
 一まきまきまきまきまき法家申まきまき無まきまきまき  
 まきまきまきまきまきまき紀伊もまきまき掃部多まきまきまき





意こそ入失りし時代のたれんがたれん事たりし何れをの  
とてあつたりたり人をめりて先かた後の大敵とて  
人の君より人の臣下をさうけはりて下りては事おさうひて  
平等なはりしなり又神又を困らめりて神事と信有り

一相國極清若中をとる事と信出ハ福徳左馬の吉更より吉正  
清くははり 権傾極上意なりしなり又はらりては考りたり  
左馬の吉更南家へ對し忠功清くして有るにきり一御一丸上誠を  
は信守といひては信出はしハ清前めと信出る諸臣各目と目を  
吉更及ん今今府而多信守信守清くしては是なりなり 上この下  
左馬の吉更極清南家へ對しなりとて是なり一の忠功ハ一奉 石田  
他知らハ功徳のき今夜送りて石田を對しなりなり 権傾極上

今より元福徳左馬の吉更加茂之平氏を甲斐守清野左馬吉更  
加茂なるかき九人なりけ付も左馬の吉更一書ふ事の徳を  
就まじも 権傾極上用の思は信出右人の元と出なりなり  
法教か補佐和心ハ功徳の利とありては多しなりと信出なりなり  
用んは信出の山月なりては法教か補佐和心とあり又は下り  
降の付も黒田與左馬吉更なりて左馬の府と信出とありけ

権傾極上中降の思は信出右人の元と出なりなり  
一書ふ左馬の吉更二書ふ平氏三書法を左馬吉更なりなり  
一書ふ左馬の吉更ハ信出を権ハ考なり二書ハ山月の名なりなり  
三書ハ左馬の吉更ハ信出なりなり加茂之平氏清野左馬吉更なりなり

秀頼公の御位は二条(一)あり。 権現孫秀頼公(二)の御面を控  
りて御座候。 其の後三年に於て秀頼公(三)の御位を譲りて  
御座候。 是れは(四)尾張(五)大藏(六)の御位に譲りて  
御座候。 是れは(七)尾張(八)大藏(九)の御位に譲りて  
御座候。 是れは(一〇)尾張(一一)大藏(一二)の御位に譲りて  
御座候。 是れは(一三)尾張(一四)大藏(一五)の御位に譲りて  
御座候。 是れは(一六)尾張(一七)大藏(一八)の御位に譲りて  
御座候。 是れは(一九)尾張(二〇)大藏(二一)の御位に譲りて  
御座候。 是れは(二二)尾張(二三)大藏(二四)の御位に譲りて  
御座候。 是れは(二五)尾張(二六)大藏(二七)の御位に譲りて  
御座候。 是れは(二八)尾張(二九)大藏(三〇)の御位に譲りて  
御座候。 是れは(三一)尾張(三二)大藏(三三)の御位に譲りて  
御座候。 是れは(三四)尾張(三五)大藏(三六)の御位に譲りて  
御座候。 是れは(三七)尾張(三八)大藏(三九)の御位に譲りて  
御座候。 是れは(四〇)尾張(四一)大藏(四二)の御位に譲りて  
御座候。 是れは(四三)尾張(四四)大藏(四五)の御位に譲りて  
御座候。 是れは(四六)尾張(四七)大藏(四八)の御位に譲りて  
御座候。 是れは(五一)尾張(五二)大藏(五三)の御位に譲りて  
御座候。 是れは(五四)尾張(五五)大藏(五六)の御位に譲りて  
御座候。 是れは(五七)尾張(五八)大藏(五九)の御位に譲りて  
御座候。 是れは(六一)尾張(六二)大藏(六三)の御位に譲りて  
御座候。 是れは(六四)尾張(六五)大藏(六六)の御位に譲りて  
御座候。 是れは(六七)尾張(六八)大藏(六九)の御位に譲りて  
御座候。 是れは(七〇)尾張(七一)大藏(七二)の御位に譲りて  
御座候。 是れは(七三)尾張(七四)大藏(七五)の御位に譲りて  
御座候。 是れは(七六)尾張(七七)大藏(七八)の御位に譲りて  
御座候。 是れは(七九)尾張(八〇)大藏(八一)の御位に譲りて  
御座候。 是れは(八二)尾張(八三)大藏(八四)の御位に譲りて  
御座候。 是れは(八五)尾張(八六)大藏(八七)の御位に譲りて  
御座候。 是れは(八九)尾張(九〇)大藏(九一)の御位に譲りて  
御座候。 是れは(九二)尾張(九三)大藏(九四)の御位に譲りて  
御座候。 是れは(九五)尾張(九六)大藏(九七)の御位に譲りて  
御座候。 是れは(九九)尾張(一〇〇)大藏(一〇一)の御位に譲りて  
御座候。

くまの原(一)の御位に譲りて御座候。 是れは(二)くまの原(三)の御位に譲りて御座候。 是れは(四)くまの原(五)の御位に譲りて御座候。 是れは(六)くまの原(七)の御位に譲りて御座候。 是れは(八)くまの原(九)の御位に譲りて御座候。 是れは(一〇)くまの原(一一)の御位に譲りて御座候。 是れは(一二)くまの原(一三)の御位に譲りて御座候。 是れは(一四)くまの原(一五)の御位に譲りて御座候。 是れは(一六)くまの原(一七)の御位に譲りて御座候。 是れは(一八)くまの原(一九)の御位に譲りて御座候。 是れは(二〇)くまの原(二一)の御位に譲りて御座候。 是れは(二二)くまの原(二三)の御位に譲りて御座候。 是れは(二四)くまの原(二五)の御位に譲りて御座候。 是れは(二六)くまの原(二七)の御位に譲りて御座候。 是れは(二八)くまの原(二九)の御位に譲りて御座候。 是れは(三〇)くまの原(三一)の御位に譲りて御座候。 是れは(三二)くまの原(三三)の御位に譲りて御座候。 是れは(三四)くまの原(三五)の御位に譲りて御座候。 是れは(三六)くまの原(三七)の御位に譲りて御座候。 是れは(三八)くまの原(三九)の御位に譲りて御座候。 是れは(四〇)くまの原(四一)の御位に譲りて御座候。 是れは(四二)くまの原(四三)の御位に譲りて御座候。 是れは(四四)くまの原(四五)の御位に譲りて御座候。 是れは(四六)くまの原(四七)の御位に譲りて御座候。 是れは(四八)くまの原(四九)の御位に譲りて御座候。 是れは(五〇)くまの原(五一)の御位に譲りて御座候。 是れは(五二)くまの原(五三)の御位に譲りて御座候。 是れは(五四)くまの原(五五)の御位に譲りて御座候。 是れは(五七)くまの原(五八)の御位に譲りて御座候。 是れは(五九)くまの原(六一)の御位に譲りて御座候。 是れは(六一)くまの原(六二)の御位に譲りて御座候。 是れは(六三)くまの原(六四)の御位に譲りて御座候。 是れは(六五)くまの原(六七)の御位に譲りて御座候。 是れは(六七)くまの原(六八)の御位に譲りて御座候。 是れは(六九)くまの原(七一)の御位に譲りて御座候。 是れは(七一)くまの原(七二)の御位に譲りて御座候。 是れは(七三)くまの原(七四)の御位に譲りて御座候。 是れは(七五)くまの原(七六)の御位に譲りて御座候。 是れは(七七)くまの原(七八)の御位に譲りて御座候。 是れは(七九)くまの原(八〇)の御位に譲りて御座候。 是れは(八一)くまの原(八二)の御位に譲りて御座候。 是れは(八三)くまの原(八四)の御位に譲りて御座候。 是れは(八五)くまの原(八六)の御位に譲りて御座候。 是れは(八七)くまの原(八八)の御位に譲りて御座候。 是れは(八九)くまの原(九〇)の御位に譲りて御座候。 是れは(九一)くまの原(九二)の御位に譲りて御座候。 是れは(九三)くまの原(九四)の御位に譲りて御座候。 是れは(九五)くまの原(九六)の御位に譲りて御座候。 是れは(九七)くまの原(九八)の御位に譲りて御座候。 是れは(九九)くまの原(一〇〇)の御位に譲りて御座候。